2021 年 7 月-8 月合併号　　題字　一萬田 尚登 第 5 代日印協会

月刊 インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して 118 年）

モディ改造内閣の新任閣僚 43 人が就任宣誓式（於、大統領官邸）
7 月 7 日最前列左から 6 人目がモディ首相、8 人目中央がコヴィンド大統領

写真：インド首相府ホームページより

目次

1. 2020 年度決算理事会・2021 年度評議員会 報告……P. 3
2. タゴールと高良とみの交流……P. 9
3. 仏教関連行事を通じてインドと日本を繋ぐ……P. 12
4. インドニュース（2021 年 6 月）……P. 14
5. 新刊書紹介……P. 20
6. イベント紹介……P. 21
7. 掲示板……P. 22

広告削除後、目次とページを合わせるために空白ページをいれております。

1. 2020 年度決算理事会・2021 年度評議員会 報告

The Board Meeting of the Directors and Subsequent Council Meeting

日印協会 事務局長　西本達生

2020 年度の決算理事会および新年度の 2021 年度定例評議員会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、昨年同様会合を持たずにオンラインによる電磁式決済にて運用いたしました。2020 年度決算理事会については 6 月 7 日、それを踏まえて 2021 年度定例評議員会は 6 月 21 日に評決がなされました。評議員、理事各位には改めて御礼申し上げます。この度、内閣府に事業報告の届け出を完了いたしました。

会員の皆様には、本紙面に概略を掲載いたしますので、この機会に通読いただければと存じます。

2020 年度決算理事会

第 1 号議案「2020 年度事業報告（案）」の承認の件（決議事項）

予め送付の「2020 年度事業報告（案）」を審議して頂いた結果、日印協会が業務を確実に遂行し、内容に不備がないことで、理事全員に 6 月 7 日付けで電磁式に承認決裁をしていただきました。

以下、今回も議案書について全文引用します。少々長い文ですがご一読ください。

2020 年度 事業報告

一般概況

今期 2020 年度は、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）が各国に蔓延し、世界的な経済恐慌および国際関係に多大な影響を与えた一年となりました。

日本とインドの二国間関係において、最も象徴的なイベントである首脳の相互訪問は、2020 年度はこのコロナ禍のため実現しませんでした。2019 年度もインド国内事情により、当時の安倍総理の訪印が直前で中止となりましたので、2 年途絶えています。

しかしながらこのような状況下にあっても、両国間には、揺るぎのない強固な関係が維持されていることを示す事例が多々ありました。それらを振り返って、日印協会が果たしてきたことを検証したいと思います。

今期における日印首脳の直接の出会いの機会は、2020 年 4 月に行われた安倍総理（当時）とモディ首相との電話会談で、新型コロナウイルス感染症に対し一致協力し、感染が収束した後の世界において日印関係を一層深化させるため、両国で緊密に連携することで一致しました。

その後 9 月になって、突然の安倍総理辞任表明がありましたが、いち早く 9 月 16 日に、後継の菅義偉新総理とモディ首相のあいだで初の電話会談が行われました。直前の 9 月 9 日には「日・インド物品役務相互提供協定（ACSA）」が署名され、共に国際社会の平和と安全に一層寄与することを確認、さらに翌月には、日米豪印の 4 か国外相会談（QUAD、クアッド）が開かれるなど、菅内閣でも「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」戦略の継続発展が図られていると評価されます。その後 3 月 12 日にクアッドの首脳会議がオンラインで開催されました。また、この枠組みにさらに英独仏蘭のヨーロッパ各国が関与を表明するに至り、一層強い絆で、中国の脅威に立ち向かい、インド太平洋の平和と安定を志向する動きとなってきております。

また、森喜朗日印協会会長が総理当時の 2000 年に訪印した際に立ち上げた、「21 世紀における日印グローバル・パートナーシップ」については、時を経ていまや「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」と、修飾語が三つも付いた関係へと発展しましたが、菅内閣においても「さらなる高みに引き上げる」ことを確認し、安全保障、経済、文化、人的交流などあらゆる面で協力することで一致しました。

具体的な合意として、インドでの高速鉄道事業や人的交流を促進すること、日本での外国人労働者受け入れ拡大に向けた在留資格「特定技能」制度に関し近く協定覚書に署名する見通しであることを確認し、最後に現存するコロナ禍が収束した後に、恒例の相互訪問を再開することも申し合わせたことなど、安倍前総理のときと変わらぬ緊密さが菅新政権においても確認されました。

我が日印協会は、従来から日印関係増進の先頭に立ってきましたが、あらためてこの役務に最もふさわしい機関であることを再認識しております。新型コロナが日印両国で流行する中にあっても、協会は、外務省、インド各地にある日本大使館や総領事館、ジェトロ、JICA、 JBIC、国際交流基金などの日本政府関係機関とともに、可能な限りで日印交流・友好関係増進に努めてきました。

協会の長い歴史を通じて発行してきた月刊誌「月刊インド」は、緊急事態宣言直後の2020年4月と5月こそ合併号としましたものの、その後については予定通り刊行しました。

会員同士の交流の場（交流会、様々なインド）、インドビジネスの税務・会計・法務などについてのセミナーも、20年度も様々なリアル活動を企画しましたが、開催を断念せざるを得ない状況となりました。しかしながら、最近多く使われるソーシャルメディアの、ZOOMなどの手段を使い、協会法人会員の銀行、法務・会計ファーム、企業進出コンサルや、日本とインドの学生交流団体、各大学のほか、個人会員の方が新聞メディアと組んだ企画など、オンライン参加型案件を、都度会員の皆様に案内して参りました。その件数は、一年間で36回に上りました。また、在留邦人の帰国にあたり、インド政府との合意に基づくJAL、ANA、AI各社の二国間合意臨時便（エア・バブル便といいます）の案内を、日本とインドに向けていち早く提供いたしました。

学術研究分野においては、協会内に2015年9月発足した「現代インド研究センター」(平林博センター長)が堀本武功先生ならびに小島眞先生のアドバイスをいただきながら、企画立案、テーマや執筆者の選定、寄稿依頼などにより、Web版季刊誌「現代インド・フォーラム」を予定通り発刊しました。今期は、最も関心の高いコロナ禍についても、内外の学者、研究者および有識者にお願いし論考いただきました。具体的には「現代インド・フォーラム」2020年春季号No.45 、同2020年夏季号No.46 「特集：インドに於ける新型コロナウイルス感染症問題」、同2020年秋季号No.47「特集 ポスト・コロナとインド」、2021年冬季号No.48の刊行を行いました。

なお今年度上半期に、評議員として支えていただきました谷野作太郎元大使が今期辞退され、代わりに堂道秀明元大使に就任いただきました。谷野元評議員には引き続き顧問として見守っていただきます。また副会長・理事として当協会を支えていただきました、小島順彦様（三菱商事）、米谷佳夫様（三井物産）、松田進様（トヨタ自動車）が退任され、西浦完司様（三菱商事）、藤谷泰之様（三井物産）、宮﨑洋一様（トヨタ自動車）が就任されました。小島秀樹弁護士もご自身の事情で理事を退任されました。

副会長・理事の交代につきましては、定款に則り6月22日開催の定例評議員会（電磁式）で承認され新規に就任されました。

顧問人事では、永らく務めて下さった、岡本純一様（三菱ケミカル）、長崎暢子様（東京大学名誉教授）、中野良子様（公益財団法人オイスカ）、横尾英博様（デンソー）が退任、他方、この度外務省を退官された八木毅元インドついでドイツ大使に新たに就任いただきました。末尾には現在の役員等名簿を添付します。

次に2020年度の活動に関し、定款28条第3項の定めにより、次の各項

1. **事業活動**
2. **会員状況**
3. **収支状況**

について業務報告をいたします。

1. 2020年度事業

(1) 評議員会及び理事会の開催

2020年6月 2日	2019年度決算理事会（定例）	電磁式
2020年6月22日	2020年度決算評議員会（定例）	電磁式
2021年3月13日	2021年度予算理事会（定例）	電磁式

(2)　協会機関誌『月刊インド』の発行　　**―内閣府事業に定める 公３に準ずる事業―**

会員へのサービス、さらには会員以外へのインドのニュースの普及を目指して刊行中の月刊誌「月刊インド」は、インドの内政、外交、日印関係に関する主要な出来事を、外務省・在インド日本大使館の協力も得て月毎にまとめた「インドニュース」という貴重な情報のほか、インドと日印関係において注目される興味ある記事を掲載しております。

この蓄積データは、以前にマイクロフィルム化され、協会と東京外語大学で保存されてきました、一昨年に創設以来の各号の記事のタイトルなどを電磁化し、協会で保存しています。協会会員や日印研究者にとって、インド研究の上で貴重な資料であります。

予算及び人手不足により、英語版はまだできていませんが、インド人ほかの外国人会員に多少なりとも役立つよう、英語の記事や日本語寄稿文への英語タイトルの付与など工夫を重ねております。

(3)　Web 版季刊誌『現代インド・フォーラム』の発行（年間 4 回発行）**―同 公１に準ずる事業―**

今年度も発行日の原則を順守して発行いたしました。詳細については本稿では省略いたします。

日本人学者や研究者のみならず、インド人ほかの外国執筆陣も投稿するようになり、一部論文は英語版としております。ベテランの学者・研究者のみならず、新進気鋭の方々にも門戸を開き、研究発表の場を提供しております。英語論文については日本語の、日本語論文については英語の要旨を付すことにしています。

『月刊インド』および『現代インド・フォーラム』を日本語と英語の双方で発刊することは長年の課題ですが、予算と人手不足のために難しい状況に変わりなく、今後できるだけの工夫を凝らす方針です。

(4)　日印協会直接の現地視察・調査事業　　**―同 公１に準ずる事業―**

今期も渡航シャットダウンにつき行いませんでした

(5)　日印協会が主催するなど直接・間接に関わった主な事業　　**―同 公４に準ずる事業―**

詳細は本稿では省略いたしますが、法人会員様が主催したオンラインセミナーなどを支援いたしました。

＜文化交流事業＞＜文化行事事業＞など 31 件（詳細省略）

そのほかに多くのイベント・行事が中止となり、直接当協会が関わった協賛・後援事業は行いませんでした。

2.　会員状況

(1)　法人会員：

協会の活動と財政基盤を支えるべき法人会員の数は、今般のコロナ禍で大幅減少に至りました。

2021 年 2 月末現在 124 社　（特別法人会員 49 社、一般法人会員 75 社）となり、2020 年度末に対し退会 11 社、入会 2 社で 9 社減、さらに特別会員で、退会は思いとどまっていただいたものの、口数減とされたところもあり、これまでにない規模の会費収入の減額を余儀なくされることとなりました。また現下の情勢に鑑み、特例として、退会を希望した 7 社の法人会員を説得し、1 年間の休会として協会のサービスを継続提供する代わりに、一年後の復帰を目指していただくことにしました。休会会員からは会費納入はありません。来年度には、さらに退会・休会を考えておられる会員企業もあり、予断を許さない状況にあります。

この時期に新規に特別法人として入会いただいたのは、三重県に本社を構えインド人社長の**バイオマスパワーテクノロジー社**とインドに投資とゲームソフトなどコンテンツ事業の展開を図る**株式会社アカツキ社**の 2 社です。（なお新年度替わり直後に、インドで歯科治療展開をお考えの**医療法人社団育健会**に入会いただきました。）

対して、永らく特別法人会員として支えてもらった**DOWA サーモテック社、インドステイト銀行、**一般法人会員である、**バンク・オブ・インディア東京、東洋インキホールディングス、コックス・アンド・キングス・ジャパン、サンウェルソリューションジャパン、高砂熱学工業、一般財団法人 MRA ハウス、第百ゼネラル、株式会社デリー、特定非営利法人日印国際産業振興協会、資生堂（但し 6 月退会を決定）、コグニティリサーチラボ（2021 年 12 月退会決定）**の 13 社が退会或いは予定となりました。

最新の法人会員一覧を後のページに転載します。

⑵　個人会員：

2021 年 2 月末現在で 347 人、昨年同期比 47 人減となりました。うち、インド人会員 38 人（昨年同期 38 人）、学生会員 17 人（昨年同期 17 人）と構成内容には大きな変動はありません。個人会員はコロナ禍の影響はさほど受けていないとみていますが、高齢な会員の方のご辞退と、相入れ替わって壮年の新入会員が少しあり、いわば新陳代謝が起きているように感じています。

3. 収支状況

2020 年度(令和 2 年度)予算対比実績（損益計算書ベース）は省略いたします

⑴　主として会費収入からなる経常収益は 26.6 百万円と、前年 27.5 百万円に対し 89 万円減となりました。これは、2.項 会員状況で挙げましたとおり、法人会員の退会と休会、および個人会員の退会を合わせて会費収入減が 215 万円のほか、一部広告収入減が発生しました。代わりに、現金による寄付金として 3 件計 298.6 万円をいただきましたので、約 89 万円の減収にとどまりました。

⑵　他方、主催事業開催事業費や月刊誌・季刊誌発刊、ホームページなどの情報発信費用からなる直接事業費、および役員報酬、職員給与、事務所費用などからなる間接事業費の二つから構成される経常費用は 24.0 百万円で、前年の 27.3 百万円に対して支出を抑えることができました。前々年度の 30.0 百万円に対して連続で支出を抑えております。

⑶　その結果、242 万円ほどの黒字となりました。

新年度（2021 年度）に入ってからは、インドの新型コロナウイルス感染症拡大が 2020 年度末から急激に勢いを増し、現地の日系企業活動にも影響を及ぼしている状況にあります。また新たにインド進出をお考えの企業も今は収束を待つことを余儀なくされています。

当協会が行う事業は、定款で公益事業のみを行うこととし収益事業は行いません。収入は、ほぼ全額を企業会員や個人会員の会費収入で賄っています。会員のための事業活動は、新型コロナウイルス感染症のため、後援事業などの多くがキャンセルとなりました。今後ワクチン接種が進むなどによりこの局面が回復した暁には、一層の活動再生に注力する所存であります。

第 2 号議案　「2020 年度決算報告（案）」の承認の件（決議事項）

送付の「2020 年度決算報告（案）」を審議して頂いた結果、日印協会が業務を確実に遂行し、内容に不備ないことで、理事全員が電磁式に承認決裁をしました。

第 3 号議案「2021 年度定例評議員会の招集（案）」の承認の件（決議事項）

添付の「2021 年度定例評議員会の招集（案）」を審議していただいた結果、理事全員が電磁式評議員会とすることを承認決裁しました。

第 4 号議案「2020 年理事の改選」（報告事項）

添付の「2020 年理事の改選に伴う候補者リスト」にて、理事改選の内容を報告しました。

次々ページに、2021 年 6 月末現在の最新の役員名簿を添付します。なお、三菱商事代表取締役常務執行役員の平井康光様には、先の評議員会にて理事兼副会長に就任いただくことが決定しました。

第 5 号議案「会員状況報告の件」（報告事項）

会員状況について報告しました。次ページに現在の法人会員一覧を添付します。

公益財団法人 日印協会　法 人 会 員

（五十音順 2021年6月現在）

特別法人会員 48社

株式会社アカツキ	株式会社大和証券グループ本社
医療法人社団　育健会	株式会社ディア
伊藤忠商事株式会社	一般財団法人東京芸術財団
ウェブスタッフ株式会社	株式会社東芝
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所	株式会社東横インホテル企画開発
株式会社NTTドコモ	トヨタ自動車株式会社
キヤノン株式会社	豊田通商株式会社
国際縄文学協会	日本航空株式会社
国際スポーツ振興協会	株式会社日本視聴覚社
公益財団法人 国際文化会館	日本製鉄株式会社
株式会社國商	バイオマスパワーテクノロジーズ株式会社
コグニティブリサーチラボ株式会社	東日本旅客鉄道株式会社
小島国際法律事務所	株式会社菱法律経済政治研究所
株式会社小松製作所	株式会社日立製作所
Corporate Catalyst India Pvt.Ltd.	フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社ジャパンペガサスツアー	松田綜合法律事務所
株式会社シンリョー	丸紅株式会社
スズキ株式会社	株式会社ミスズ
住友商事株式会社	三井物産株式会社
世界開発協力機構	三菱商事株式会社
世界芸術文化振興協会	武蔵野メディカル株式会社
全日本空輸株式会社	株式会社ライズ・ジャパン
双日株式会社	ランプの宿株式会社
第一三共株式会社	
有限会社ダイメックス	

一般法人会員 72社

株式会社IPパートナーズ	東レ株式会社
株式会社 Willings	株式会社中村屋
株式会社運動会屋	ナンギア・アドバイザーズ
エア・インディア リミテッド	西村あさひ法律事務所
株式会社エイチ・ティー・エル	日印ビジネス支援協会 株式会社
株式会社エトワール海渡	日産自動車株式会社
沖印友好協会	日本通運株式会社
鹿島建設株式会社	日本電気株式会社
株式会社熊谷組	株式会社ニフコ
鴻池運輸株式会社	公益財団法人日本交通公社
山九株式会社	一般財団法人 日本国際協力センター
ＪＦＥスチール株式会社	日本放送協会
JGreen Power Private Limited	野村ホールディングス株式会社
株式会社ジェイティービー	ハイカル ジャパン
株式会社システムコンサルタント	株式会社ハウラー
有限会社シタァール	株式会社博報堂
品川イーストクリニック	パナソニック株式会社
株式会社商船三井	阪和興業株式会社
スタンダードチャータード銀行	株式会社ピーアイ・ジャパン
住友重機械工業株式会社	日立造船株式会社
住友電気工業株式会社	株式会社日吉
ZEUS　Law	富士通株式会社
セコム医療システム株式会社	国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学
ソフトバンクグループ株式会社	前田建設工業株式会社
SOMPOホールディングス株式会社	株式会社みずほ銀行
ダイキン工業株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
大和ハウス工業株式会社	株式会社三井住友銀行
株式会社タマイ インベストメント エデュケーショ	三菱重工業株式会社
TMI総合法律事務所	株式会社三菱UFJ銀行
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド	株式会社ヤクルト本社
帝人株式会社	株式会社安井建築設計事務所
株式会社テクノロジーOne	ヤマハ発動機株式会社
株式会社デンソー	ユーピーエルジャパン合同会社
株式会社電通	株式会社LIXIL
東京海上日動火災保険株式会社	学校法人立命館
東洋アルミニウム株式会社	YKK株式会社

2020年度内退会法人：インドステイト銀行　東洋インキSCホールディングス株式会社
バンク・オブ・インディア　コックス・アンド・キングス・ジャパン　株式会社デリー
Sunwell Solutions Japan　DOWAサーモテック株式会社　一般財団法人MRAハウス
高砂熱学工業株式会社　第百ゼネラル株式会社　特定非営利活動法人日印国際産業振興協会

2020年度内入会法人：株式会社アカツキ　バイオマステクノロジー株式会社

2021年度内退会法人：株式会社豊田自動織機、エン・ジャパン株式会社、有限会社イートウェル
資生堂、三菱ケミカル株式会社

2021年度内入会法人：医療法人社団　育健会

公益財団法人 日印協会 役 員 等 名 簿

2021年6月28日現在

代表理事・会長		森　　喜　朗	第85代･第86代内閣総理大臣
代表理事・理事長	※	平　林　　博	元駐印･駐仏大使
評議員		小　島　　眞	拓殖大学名誉教授
評議員		渋　澤　　健	シブサワ アンド カンパニー代表取締役
評議員		堂　道　秀　明	前JICA副理事長 元駐印大使
評議員		ペマ・ギャルポ	拓殖大学教授
評議員		林　　康　夫	JETRO顧問　元中企庁長官　元JETRO理事長
評議員		堀　本　武　功	国際政治学者　元京都大学特任教授
評議員		松　田　純　一	松田綜合法律事務所所長
理事・副会長		鈴　木　　修	スズキ株式会社相談役
理事・副会長		大　橋　徹　二	コマツ代表取締役会長
理事・副会長		中　村　邦　晴	住友商事取締役会長
理事・副会長		藤　谷　泰　之	三井物産顧問
理事・副会長		宮　崎　洋　一	トヨタ自動車執行役員　アジア本部長
理事	＊	平　井　康　光	三菱商事 代表取締役常務執行役員
理事		大　内　晴　美	大内晴美税理士事務所所長
理事		近　藤　正　規	国際基督教大学上級准教授
業務執行理事・常務理事	※	笹　田　勝　義	元日印協会事務局長　元インド三菱電機社長
理事		竹　中　千　春	立教大学法学部教授
理事		原　　佑　二	前日印協会業務執行理事・常務理事　元インド三菱商事社長
理事		半　田　晴　久	世界芸術文化振興協会会長
理事		比　良　竜　虎	株式会社シンリョー相談役
理事		増　田　泰　三	有限会社シタァール代表取締役
理事		山　田　真　美	日印芸術研究所言語センター長
監事		江　田　　仁	元帝京平成大学教授　元三菱重工インド代表
監事		高　梨　恒　弘	高梨恒弘税理士事務所所長
顧問		前　田　專　學	東京大学名誉教授　中村元東邦学院・東方研究所理事長
顧問		谷　野　作太郎	(公財)日中友好会館顧問　元駐印･駐中大使
顧問		田　原　総一朗	田原総一朗事務所代表　ジャーナリスト
顧問		榎　　泰　邦	榎インド総合研究所代表　元駐印大使
顧問		齋　木　昭　隆	三菱商事株式会社取締役　元外務事務次官　元駐印大使
顧問	＊	八　木　　毅	元駐印大使　前駐独大使
顧問		勝　田　友　治	元日印協会理事　元㈱竹中工務店

（注）※は常勤、他は非常勤
＊ 新規

2. タゴールと高良とみの交流
Relation between Rabindranath Tagore and Tomi Koura

プロビール・ビカシュ・シャーカー

タゴールは、1913 年、アジア人として初めて、イギリスの植民地インドのベンガル人として、ノーベル文学賞を受賞しました。当時、西欧の白人文明が最も優秀なものとされていた時代に、アジア人がこの賞を受賞したことは大変珍しく特殊なことでした。受賞対象となったのは、タゴールがベンガル語で書いた詩集「ギータンジョリ」です。ギータンジャリとも呼びます。

この詩集に収められた詩には、すべてタゴールが作曲した音楽がつけられていました。当時も今も、これらの歌は人気を集めています。タゴールはその時 52 歳です。ノーベル賞を受賞してすぐに、世界、そして日本で大きな反響が巻き起こりました。知識人だけではなく一般の人々の中にもタゴールへの関心が広がり、詩人に会いたいという声が高まります。日本政府もそれに応じて、担当をインドに派遣しました。

残念ながらこの時は、詩人は日本政府の招請にもかかわらず、中々来日出来ませんでした。もちろん、その裏には政治的な事情がありましたが、まず、タゴールの詩が英語版を通じて日本語に翻訳され、他の著作も次々と紹介されました。なぜこれほどの反響があったかと言えば、当時、もしアジアからノーベル賞の受賞者が出るとすれば、それは当時のアジアでただ一つの先進国である、日本の文学者か科学者が受賞すると思われていたのですが、それがほとんど知られていない、イギリス植民地の詩人が選ばれたことへの驚きが大きかったからでしょう。

その後、のちに日印協会会長になる実業家、渋沢栄一の働きかけで、1916 年に来日が実現し、知識人の友人達に心温かく迎えられます。日本のマスコミもその情報を大きく報じました。

日印関係の基礎を築いたのは岡倉天心とタゴールですが、そのタゴールの最初の訪問中に、二つの大きな出来事がありました。ひとつは、和田とみという女子大学生との出会い。もうひとつは日本に滞在中インドの革命家ラシュ・ビハリ・ボースとの関係です。

なぜこのような出来事が歴史に意義を残したのか、その理由はこの三人の考え、努力と活動の中にあります。

この度はタゴールと和田とみ（高良とみ）女史との交流についてご紹介します。

和田とみは、1896 年、富山県の高岡市に生まれました。タゴールの最初の訪日の際、日本女子大学の学生で、軽井沢の女子大学寮にタゴールも滞在し一緒に過ごして彼の講演を聞く機会にめぐまれました。そしてこの出会いが一生を決定づけ、心の中に神のような存在であったタゴールを死ぬまで忘れませんでした。女史は生涯タゴールに合計 6 回も会いました。日本で 4 回、アメリカで 1 回、インドのシャンティニケタンで会ったのが最後となりました。その時代としてこれはとても珍しいことではないでしょうか。

彼女は、日本女子大学で学士号を得た後、米国のコロンビア大学で 1922 年に「飢餓と行動の関係」の研究で、博士号を取得しました。

彼女は 1929 年結婚したので苗字が変わり、高良とみになりました。ご主人もまた名門精神科医で心理学の多数の著書がある高良武久博士でした。彼女は日本では高良とみとして知られています。

心理学者である高良女史は英語に非常に堪能であり、後に日本女子大学の教授にもなりました。

それから国際女性解放運動、世界平和運動の第一人者で、戦後最初は民主党から立候補、次は緑風会に移籍し、二回も国会議員に選出された素晴らしい日本人でした。平和主義者、日本婦人団体連合会副会長として、また東洋学にも造詣が深く、海外で何回も講演し、国際政治情勢を調査したその貢献も大きいです。

タゴール（中央）と高良とみ（左から 3 人目）1929 年東京にて
（写真：大倉山記念館所属）

1972 年、女史は自国、および国際舞台への卓越した貢献により、「勲二等瑞宝章」を授与されました。このような立派な日本の女性の方がタゴールという偉大な人格との関係を持ったことは、日本とベンガル交流史において非常に啓発的な章だと私は思います。

まず、通訳から始まって、高良女史は徐々にタゴールの作品の翻訳者となり、彼に関する書籍の著者にも上がりました。女史は一生を通じてタゴール思想と文学について多くの研究記事やエッセイと回想を書きました。これらの中で代表作としては、「新月、ラビンドラナート・タゴール」（アポロンシャ/ 1962 年）と「詩と人生タゴール」（アポロンシャ/ 1967 年）を取り上げることが出来ます。この面おいて、他のどこの国と比べてもタゴール信奉者として高良とみははるかに上に立っていることが明らかです。

90 年代の中ごろ、日本でタゴール研究家の第一人者である筑波大学名誉教授で、タゴール国際大学の教授でもありました、我妻和男先生が私に「高良とみ女史は、タゴールにとても愛着を持ち、新しい家を『シャンティニケタン』と名付けました。このような珍しいことが日本で中々見られません。それほど心からタゴールのことを尊敬していた方でした。」と言いました。

1983 年に高良とみが出版した「非戦を生きる・高良とみ自伝」に作家の柘植恭子氏が解説として書いた「アジアの心に学ぶ」からいくつか抜粋いたします。[1]

「女史が日本女子大時代に出会ったタゴールの思想に大きく左右されたと思われる。」

「ラビンドラナート・タゴールは、いうまでもなくアジアで初めてノーベル賞を受賞したインドの著名な詩人、思想家、そして教育者である。彼と日本の関係は深く、生涯の中でも五度の来日を果たしている。日本への愛着も強く、詩人としての直感と、その独特な文明観・生命観・芸術観から日本に対する多大な賞讃と鋭い批判を行ったことは知られる通りである。」

「このタゴールの最初の来日の時、1916 年の夏にとみ女史は、日本女子大の学生としてタゴールと出会う。女子大の講堂で初めて講演を聞き、夏の一ときを軽井沢の修養会でタゴールと共に過ごした女史は、心が震えるほどの深い感動を覚えた。彼の発する一言でも聞きもらすまいと耳をすまし、それらを聞きとめたという。驚くべきことに、87 歳を数える今も、女史は当時の模様を鮮やかに記憶にとどめ、タゴールがそこでつくり彼女たちに与えた詩のいくつかを、諳んじてみせる。おそらく女史は、その時タゴールの純粋な魂ともいうべきものに触れたのである。それ以来、女史のタゴールに対する絶大な敬愛の念は生涯変わらず、タゴールの人格や思想、作品を日本に紹介し続けた。」

「それほどまでに女史に対し影響を与えたタゴールの思想を一言で言うのは難しい。（中略）彼は世俗の中にありながら、美しい純粋な魂を持ち続け、現実社会に警鐘を鳴らし続けた。日本に対しても、その生活の隅々まで行きわったっている豊かな美意識を賞讃し、一方で西洋の国家主義、物質文明の盲目的模倣を鋭く批判した。タゴールは、西洋の国家主義の中心には闘争と征服の精神が存在することを指摘し、それに追従して自然と美を尊重して来た日本の伝統文化を、日本人自ら破壊しつつあると厳しく警告したのである。とみ女史は、それを逐一日本語に訳し、日本人に訴え続けてきたことになる。とみ女史はタゴールから自然を愛し、自然と共に生きる人間の生き方、そして自らの伝統と文化のうえにたって独自の文明を築いていくアジアの眼を与えられたのである。」

また、高良とみの娘である詩人の高良留美子氏が寄せた文章からも高良とみの精神がよく分かります。

「母親は家ではインドについてあまり語らず、常にインドの服やタゴールの絵を贈り物として買っていたことが知られています。それはまるで彼女が国際的な方法で私たちを育ててきたかのようです。」[2]

また、タゴール研究家我妻和男教授は高良とみがタゴールに非常に影響を受けたことを文章に表しています。

「タゴールに出会い、氏の講演を聞き、そして依頼をこなす中で、高良とみの心に与えたタゴールの優しくて美しい人格の印象はとみを死ぬまで導いていた。女史はタゴールを生涯の師としていました。」[3]

一方、タゴールは、高良とみの才能と労働倫理に非常に感銘を受けたため、1929 年 3 月 27 日に彼女に宛てた詩を書きました。それは下記の通りです：

ジャスミンの花房で
白く飾られた樹蔭ではなく
白く泡立ち
流れ狙う波涛の群れである

1935 年にインドを訪問したとき、高良女史はシャンティニケタンにも足を踏み入れ、タゴールに会いました。短期間でしたが、暖かいもてなしを受けました。言うまでもなく、このような長い年月を経て、恩師も弟子も再会が出来て二人とも大変喜びました。

それから何年も経ちましたが、第二次世界大戦の大破壊と血まみれの後、世界と人間社会は根本的に変化しました。その戦争直前タゴールは、日中戦争の状況や、ヨーロッパでドイツの侵略を見て文明の危機を感じ、不安と不満の本を出しましてこの世界を去りました。イギリスによって長年支配された母国の望ましい独立を見ることも出来なかったのです。

高良とみ女史は、アジアが暴力と復讐の火で燃えるのを見て、辛い経験をしながら悲しんでいました。間違いなく、1941 年から 45 年までの長い戦争の間、女史は悲観的な時間をタゴールの記憶に費やしました。詩人の死亡のニュースは戦前新聞によって知りました。精神的な深いショックを克服することなく、大東亜戦争がタゴールの死亡から四か月後、12 月に勃発しました。

1947 年、インドはタゴールが強く望んでいた独立を達成しました。他の多くのタゴールの信奉者のように、高良女史もほっとしました。

それから二年後、思いがけない機会が女史にやって来ました。1949 年 3 月、「世界平和会議」が、タゴールの生家のあるインド西ベンガル州のシャンティニケタンで開催されました。女史はネルー首相の招待でこの会議に参加したのです。その時恩師タゴールを深く思い出したことを自伝にこう書き残しました、*「このシャンティニケタンは、タゴールさんが亡くなる前に、私は一度訪れたことがあります。それでとても懐かしくて、たくさんの思い出に胸がしめつけられる気がしました。そして以前ここを訪問した時と違って、今回の訪問は私一個人としてではなく、日本代表としての重大な使命を負って、この懐かしい場所へやって来たのだなあ、との思いをかみしめました。」*[4]これで高良女史は本当にタゴールを心から愛していたことがよく分かります。女史の暖かい愛情が私たちの心にも伝わってきます。

1961 年、高良とみはタゴール生誕 100 周年を祝うために、1958 年に結成された「タゴール記念協会」の執行評議会の理事の一人を務めました。女史はタゴールの生誕 100 周年を祝うためにカルカッタにも招待され、再びインドに行きました。

高良とみは、1971 年に女史に大変お世話になったタゴール活動家の我妻先生によって結成された「日本タゴール協会」（後の日印タゴール協会）の会長となりました。

そして、タゴールとの最初の出会いを記念して、1981 年に長野県の軽井沢の町の郊外にある浅間山のふもとに、詩人の生誕 120 周年を記念する胸像を有志と共に建立しました。それを「詩聖タゴール人類不戦」と名付けられました。その時女史は 85 歳。このことを女史は自伝に次のように書いています。*「.....これは、日本の議会に提出されつつあった有事立法という悪法を阻止するために、私たち、日本女子大の同窓生が集まって寄金を集め、これをもとにしてタゴール協会会長の私が中心になって建てたものです。その胸象には「人類不戦」の文字が彫られてあります。タゴールさんは生涯を通じて、非暴力の世界を訴え続けてきました。私たちは今、彼のこの言葉の重大さをかみしめなければならないのです。人殺しで金もうけをしたり、権力を得ようとする大勢の人々を止めさせることは容易ではありません。金銭欲、権力欲は、人間性に深く根を下ろした悪であり、それは誰かがというより人類全体が、生命がけで阻止しなければならないものなのです。非暴力の闘いは、政治の分野であれ、芸術や文化の分野であれ、生命を賭してするものです。それは人類のための闘いなのです」*[5]

1993 年、タゴールのこの偉大な信奉者である高良女史はこの世を去ります。我妻先生は、高良とみ女史と他のタゴールの熱烈な信奉者の関心と協力を得て、1994 年にシャンティニケタンのスリニケタン学園において「日本・ヴォボン」を「日本学院」として設立し、タゴールの夢「ジャパン・ヴォボン」を完成させました。

もし女史が生きていれば、タゴールは女史の生涯の崇拝された生命の神だったので、就任式に出席していたでしょう。

タゴールの生涯でこのような立派な女性信奉者はめったに生まれません。女史が大変努力したからこそタゴールの夢が実現出来たし、タゴール著作集の日本語版 12 巻が完成しました。それと今日まで、日本とベンガルの長い交流が継続している背景に高良とみ女史の愛情と精神的な力が存在していると私は信じています。

<引用・参照文献>
1.2.4.5.「非戦（アヒンサー）を生きる高良とみ自伝」ドメス出版 1983 年
3.「ヴァロトオジャパン：ショトボロシェルビニモィ」和男我妻/エン・ィ・パブリッシャース/コルカタ/インド/2004 年

プロビール・ビカシュ・シャーカー（Probir Bikash Sarker）
1959 年、バングラデシュ・コミラ県生まれ。チッタゴン国立大学歴史学部卒業。大学在学中、1984 年来日。日本の印刷技術と出版業を学び、1991 - 2002 年、日本で初めてのベンガル語情報誌『月刊マンチットロ』出版。2007 - 2014 年、ベンガル語子ども新聞『月刊キショルチットロ』編集長。タゴール研究家、出版者、編集者、作家、日本語法廷通訳。現在、アジア自由民主連帯協議会理事、岐阜女子大学南アジア研究センター特別研究員

3. 仏教関連行事を通じてインドと日本を繋ぐ
Connecting India and Japan through Buddhist Engagements

Prof. Siddharth Singh, Director, Vivekananda Cultural Centre
Embassy of India, Tokyo
在京インド大使館 ヴィヴェーカーナンダ文化センター所長
シッダールト・シン教授

在京インド大使館は、仏教という偉大な遺産の上に築かれたインドと日本の深い文化的な絆を考慮し、仏教にまつわる様々な活動を日本で行ってきました。私たちは最近も、インドと日本が仏教を通じて共有する文化遺産を祝うために、日本側との協力のもと、数件の活動を実施しました。

2021 年 5 月 19 日、サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使、グンジャン・ヴァルマ大使夫人、ヴィヴェーカーナンダ文化センターのシッダールト・シン所長は、長野県にある信州善光寺とインドとの古代から現在にいたるまでの強い結び付きを探るため、同寺を訪れました。一行は善光寺の由来や豊かな歴史を学んだ後、本堂の秘仏・阿弥陀如来像や賓頭盧尊者像の前で、パンデミックからの解放を祈願しました。

善光寺には、インドのビハール州ヴァイシャリー地区から日本に持ち込まれた一光三尊阿弥陀如来像があり、これは日本最古の仏像です。同寺は、1932 年から 36 年にかけてインド・サールナートの初転法輪寺で仏伝壁画を制作したことで知られる野生司香雪画伯が描いた「善光寺縁起」壁画を有することから、印日関係の近代史において特別な意味を持っています。1951 年にインド政府から善光寺に贈られた 3 頭の白牛は、両国の友愛の象徴でした。白牛の死後、善光寺は彼らを追悼し、牛の石像を設置しました。本堂入口には、紀元前 6 世紀に仏陀と僧伽の偉大な専属医師であった賓頭盧（ジーヴァカ）の木像が設置されており、信者にとって、もうひとつの見どころとなっています。賓頭盧の体をこすると、病気や肉体的な苦しみから解放されるという強い信仰があります。

ヴァルマ駐日インド大使、大使夫人、シッダールト・シン VCC 所長の善光寺訪問の様子

大使館一行は、若麻績敏隆師（寺務総長）、林明晋師（法務局長）をはじめとする同寺の代表者と交流しました。訪問の最後に、ヴァルマ大使は報道関係者に向けてスピーチを行い、彼らと交流しました。

2021 年 5 月 21 日、在京インド大使館は、ディスカバー インディア クラブ（DIC）との共催で、オンライン会議『コロナ禍における仏教』を開催しました。日本仏教の各宗派を代表する高僧、インドと日本の専門家、インド古典舞踊のアーティストが一堂に会し、コロナ禍という未曾有の事態における仏教の重要性に焦点を当てる特別なプログラムを開催しました。

プログラムは、延命寺の河野亮仙上人と河野雅亮上人による真言の詠唱で始まり、続いてサンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使閣下が開会の挨拶の中で、「仏教は、心と体の不可分のつながり、つまり、思考、体、外界の間で起こる複雑な相互作用を重視しています」と述べました。著名な仏教美術専門家であるマスーマ・リズヴィ博士、東大寺長老・印度山日本寺竺主である北川原公敬上人、金峯山寺管頭の五條良知上人、超勝寺住職の大來尚順上人、ディスカバー インディア クラブの金子延康副会長による講演も行われました。オディッシー舞踊家の伊藤祥子さんとバラタナティヤム舞踊家の冨安カナメさんによる公演も行われました。また、7 月に開催される野生司香雪画伯の展覧会に向けて、画伯の仏伝壁画を解説するビデオも上映されました。ヴィヴェーカーナンダ文化センターのシッダールト・シン所長による閉会の挨拶に続き、DIC のラビンダー・マリク会長が謝辞を述べて、オンライン会議は終了しました。

中外日報や佛教タイムス、金峯山寺のニュースレターなどが、250 名以上の一般の聴衆が参加した同会議について報道しました。

中外日報 (5) 2021年(令和3年)6月2日

「コロナ禍の仏教」オンライン講演会

菩薩の心で共に行動
平和な社会で幸せに

北河原氏法話

日印国交70年でインド大使館

余剰地の有効活用！個別にご併養
愛樹木葬
株式会社アイエム 0120-501-373

中外日報の掲載記事

2021 年 7 月 16 日、野生司香雪画伯の功績を記念するインド大使館主催の式典が、ヴィヴェーカーナンダ文化センターにて開かれました。サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使が、野生司画伯の仏画を紹介する展覧会の開会式を執り行いました。大使は開会の挨拶の中で、画伯がサルナートで制作した仏伝壁画の歴史的重要性を強調しました。ヴァラナシ市サルナートにある初転法輪寺では、インド大菩提会の協力のもと、野生司画伯が描いた壁画の保全作業が行われています。1918 年、仏教を熱心に信仰する日本人である野生司香雪画伯は、アジャンタ石窟壁画の美に魅了され、インドを訪問しました。画伯はアジャンタ石窟で古代に制作された壁画を模写し、その後、1932 年から 36 年にかけ、初転法輪寺にて壁画を製作しました。この寺院は、仏陀が初転法輪を行った場所に建てられており、仏舎利が祀られていることから、仏教徒にとって大切な寺と目されています。今回の記念式典は、2019 年 10 月 31 日、壁画保全プロジェクトについての情報を伝播する目的で開かれたキックオフに続く二回目の行事となりました。

溝渕茂樹氏による講演

シン教授による講演

「野生司香雪　インドの仏伝壁画保全プロジェクト」は、2019 年 11 月 28 日から 12 月 17 日にかけて、技術監督者の木島隆康教授と学芸員の溝渕茂樹氏の監修のもと、第 1 期の修復作業が行われました。

この壁画保全プロジェクトは、「野生司香雪画伯顕彰会」が主催し、以下の団体が協力しています：仏教伝道協会、インド大使館、香川県、日印協会、中村元東方研究所、淑徳学園、武蔵野大学、文化財保護・芸術研究助成財団（後援）、トラベルサライ、彩色設計、ディスカバー インディア クラブ（協力）。

式典では、サンジェイ・クマール・ヴァルマ大使による開会の挨拶に続き、溝渕茂樹氏が野生司香雪の生涯を紹介しました。続いて小野村勇人氏

『聖地サールナートの仏伝壁画と
野生司香雪』展覧会

によるサルナートにおける壁画保全作業についての解説、シッダールト・シン教授による講演「インドにおける仏教の歴史とインドの神々の日本への伝来」、善光寺白蓮坊住職である若麻績敏隆上人による講演「野生司香雪の影響と善光寺との関係」、野生司画伯の孫である野生司義光氏による挨拶が行われ、「野生司香雪画伯顕彰会」の生田要助会長が感謝の言葉を述べて、式典はお開きとなりました。

2021 年 7 月 26 日、インド大使館ヴィヴェーカーナンダ文化センター講堂にて「ブッダと白隠禅師展」が開催されました。白隠慧鶴は、すべての禅師の中で最も重要な人物の一人です。白隠慧鶴は、存続が危ぶまれていた臨済宗を再興し、同宗における実践を、坐禅と公案の研究という基礎に立ち返らせました。 一般大衆を重視した白隠禅師は、寺という枠を超え、世俗のあらゆる階層の人びとに教えを広めました。この行事のプログラムは、以下の要素で構成されました：サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日大使による開会の辞、荒木重雄教授、山田一眞上人、松蔭寺住職の宮本圓明上人、ヴィヴェーカーナンダ文化センター所長のシッダールト・シン教授、堀内伸二博士による講演、橋本欽至日印文化交流ネットワーク副会長による感謝の言葉。

これらすべての行事は、インド独立 75 周年と印日国交樹立 70 周年を祝う活動の一環として行われました。インド大使館は、今後も日本の仏教団体と協力して、仏教に関連する行事を数多く開催していきたいと考えています。

松蔭寺住職の宮本圓明上人

お知らせ： この記事の英語原文をホームページに掲載しております。 The original English text of this article " Connecting India and Japan through Buddhist Engagements" has been published on JIA Website.

シッダールト・シン（Siddharth Singh） インド、バナーラス・ヒンドゥー大学にて博士学位取得後、 2003-2004 年、国際交流基金フェローシップにより、国際交流基金関西センター（大阪）にて「近現代日本におけるパーリ仏典研究」のテーマで研究を行う。2005 年 Vadrāyana Vyās President 賞（インド）受賞。2011-12 年、フルブライト・シニアリサーチフェローシップによりアメリカ、コロラド大学 にて研究。現在は在日インド大使館 ヴィヴェーカーナンダ文化センター長およびバナーラス・ヒンドゥー大学教授。この間スウェーデン、日本、中国、タイ、ベトナム、スリランカ、ミャンマーなどの大学・研究機関で授業、研究も行っている。専門分野はパーリ仏典、上座部 仏教を中心としたインドの宗教研究。主な著書に Saddhammasangaho (13 世紀までのインド仏教史、パーリ・テキスト校訂および翻訳研究）等がある。

4. インドニュース(2021 年 6 月)
News from India

1 内政

【連邦政府】

6 月 7 日：モディ首相は国民に向けた演説（オンライン）を行い、6 月 21 日以降、18 歳以上の全国民に無料でワクチンを提供する旨発表した。また、公共配給制度（PDS）を通じた、食料補償制度を 11 月のディワリまで継続し、8 億人に毎月の食料配給を継続すると表明した。

【改正市民権法(CAA)】

6 月 3 日：現地メディアは、議会委員会が内務省に対して CAA の細則策定のための 3 ヶ月の期間延長が認められた旨報じた。CAA の効力が停止されるのは 2 度目。細則の立案期間の延長は、コロナによる影響のためとされ、これにより CAA の運用開始がさらに延期されたことになる。

【農業法改正】
6月26日：統一農民戦線(SKM)は、農民による抗議活動が7か月に及び、改めて抗議の意を示すため、「農業を救い・民主主義を救おう」というスローガンのもと、全国の州首相公邸に向かって行進を行い農業法の改正への抗議活動を行った。

【西ベンガル(WB)州】
6月6日：現地メディアは、バナジー州首相の甥アビシェーク・バナジー連邦下院議員が全インド草の根会議派（AITC）の全国事務総長(National General Secretary)に任命された旨報じた。同議員は、5月のWB州議会選挙の勝利に貢献し、今後はバナジー首相の後継者として、同党を全国政党に引き上げることが期待される旨報じられている。

【ウッタル・プラデシュ(UP)州】
6月14日：現地メディアは、州野党の社会主義党(SP)と庶民党(AAP）の指導部が、アヨーディヤに建設予定のヒンドゥー教寺院であるラーマ寺院のための基金である「ラーマ生誕地巡礼地信託」の構成員による不正疑惑を公表し、中央政府やインド中央調査局に対し、寺院建設のために集められた寄付の用途について調査を行うよう求めた旨報じた。
6月19日：現地メディアは、同州BJP副総裁に元官僚（IAS）のＡＫシャルマ氏が就任した旨報じた。シャルマ氏はモディ首相がグジャラート州首相時代からの側近であり、1月にIASを退職し、UP州上院議員に就任しており、2022年に行われる州議会選挙に向けた動きが活発化しているとされる。

【ジャンム・カシミール（ＪＫ）準州】
6月24日：モディ首相の呼びかけにより、ジャンム・カシミール（JK）準州の主要地域政党指導者がデリーの首相官邸に一堂に会し、中央政府との間で、同準州における準州議会選挙の実施に向けた会合が行われたところ、概要以下のとおり。

ポイント
○今次会合は、2019年にJK州（当時）に特別な地位を与えていたインド国憲法第379条が無効化され、同州がJK準州とラダック連邦直轄領に分割されて以降、中央政府とJK主要政党間で行われた初の会合。
○JK準州からは、コングレス、BJP、人民民主党（PDP）等8つの主要地域政党から、4名の同州首相経験者及び4名の同州副首相経験者を含む14名の政治指導者が参加、中央政府からはモディ首相に加え、アミット・シャー内相、アジット・ドヴァル国家安全保障担当補佐官、P.K.ミシュラ首相府首席秘書官、アジェイ・クマール・バッラ内務次官、及びマノージュ・シンハ同準州暫定知事が参加した。
○中央政府と地域政党指導者との間で、2018年9月以降実施の待たれている準州議会選挙の実現に向けた話し合いが持たれた。他、マノージュ・シンハ暫定知事が政治的な理由で拘留されている人々の措置を検討する委員会を立ち上げることが決定された。

6月25日：「グプカル宣言のための人民連合（PAGD）」のグラーム・ナビ・アーザード元コングレス党国会議員は、現地メディアのインタビューに応じ、昨24日のモディ首相及びシャー内相との会談は時間制限がなく、非常に良い意見交換ができた旨述べた。また、PAGDのメンバー全員が憲法第370条無効化について提起したと報道されており、モディ首相は、「デリー・キ・ドゥーリー」(デリーからの距離)と「ディル・キ・ドゥーリー」(心との距離)を取り除きたい、「過去は過去であり、未来について話そう」と述べたと報じられている。
6月30日：現地メディアは、選挙区策定委員会（Delimination Commission of India）が、7月6日から9日までJK準州を訪問し、関係者との協議を行う旨報じた。選挙区の策定は、2019年に制定されたJK準州再編法に基づき現在行われている選挙区策定の状況を確認することが目的であり、JK準州の選挙区見直しは、1981年の国勢調査に基づき1995年に策定されて以来となる。JK準州再編法では、州議会の議席数を107議席から114議席に増やすことを規定しており、再編法施行前の各地域の議席数からそれぞれ増えることが予想されている。

【プドゥチェリー(PY)準州】
6月27日：現地メディアは、コヴィンド大統領により、PY準州内閣として5の閣僚が任命され、宣誓式が行われ旨報じた。3名はランガスワミ準州首相が率いる全インド国民会議（AINRC）から選出され、2名がＢＪＰから選出された。本年5月の選挙以降、ランガスワミ準州首相の体調不良やBJPとの連立政権による調整のため、準州首相の任命が遅れていた。

2　経済

6月28日：シタラマン財務大臣は新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済対策を発表したところ、概要以下のとおり。

ポイント

1．概要

○政府は新型コロナウイルスの第二波で打撃を受けた国内経済の回復を目指し，総額6兆2899億ルピー（約9兆3684億円，対ＧＤＰ比2.8%）の経済対策を発表。

○新型コロナの影響の大きい分野（中小企業，観光業，医療インフラ等）への救済策に焦点を置き，家計所得・企業所得を支える。

○金額の大きい措置はいずれも融資保証となっており，支出を伴う措置は限定的との見方が強い。支出を伴う措置は、肥料補助金、穀物配給制度の継続、小児医療の改善等、1.3兆ルピー程度となる見込み。

○政府は当初予算において、今年度の財政赤字を対ＧＤＰ比で6.8%と見積もっているものの、今回の措置の影響等を踏まえると、財政赤字は7.1%まで拡大するとの見方もあり、経済回復に向けて引き続き厳しい経済財政運営を迫られる。

○今回の対策における主な措置は以下2.の通り。

2．経済対策の主な措置

（1）新型コロナの影響の大きい分野に対する融資保証制度の創設（1.1兆ルピー）

・全国信用保証受託公社（NCGTC）を通じて信用保証を供与。

・1.1兆ルピーの保証枠のうち，5000億ルピーは医療分野への支出に紐付け。

・医療分野への支出は医療インフラ整備が遅れた地域を対象として、新規プロジェクトについては75%，既存プロジェクトの拡大については50%まで融資保証を実施。融資額は最大10億ルピー，保証期間は最長3年間，利率は7.95%が上限。

（当館注）融資保証のない場合の標準金利は10－11%。

・その他の分野については，追って決定。現時点で決定している措置として、観光業従事者に対する運転資金や個人融資の提供があり、観光省認可の旅行・観光業者は最大100万ルピー，地方レベルで認可を受けた旅行ガイドは10万ルピーまで100%の融資保証を受けることが可能。利率は8.25%が上限。

（2）医療インフラ改善に対する支援（1500億ルピー）

・支援に当たっては子供及び小児医療・小児用ベッドに重点がおかれ，主に短期の緊急的対応に支出。

・これにより、ＩＣＵベッド及び酸素の供給拡大，医療機器及び医薬品の供給，遠隔医療や救急サービスへのアクセスの確保等を図る。

（3）観光査証の無償発給（10億ルピー）

・政府は観光査証の発給を停止しているが，査証発給の開始後，最初に応募した50万人を対象に観光査証を無償で発給。

・（1）の融資保証との相乗効果を期待しての観光業復興策。

（4）緊急与信枠保証制度（ECLGS）の拡張（1.5兆ルピー）

・昨年5月に導入された緊急与信枠保証制度（ECLGS）について，保証枠を現行の3兆ルピーから4.5兆ルピーに引き上げる。

・なお、政府はECLGSを通じて実施開始から現在までに2.69兆ルピーの融資保証を実施済み。

（5）マイクロファイナンス機関向けの融資保証スキームの創設（750億ルピー）

・指定商業銀行によるマイクロファイナンス機関への融資について、1顧客当たり12万5千ルピー以下の少額貸

出を行う場合に限り、融資保証を行う。
（6）肥料補助金の拡大（1478 億ルピー）
・リン酸二アンモニウム（DAP）肥料及び窒素・リン酸・カリウム（NPK）化成肥料に対する補助金を拡大。
・同時に，政府は栄養増と農民所得の増加を図るため，インド農業研究委員会の指導の下、21 の災害に強い特別品種及び高栄養品種の開発・普及を促進。
（7）貧困層向けの食用穀物配給制度（PMGKAY）の期間延長（9387 億ルピー）
・6 月 8 日のモディ首相の演説で発表されていた措置。支給終了時期を従来の 5 月からディワリ（ヒンドゥー教の祝祭日）の 11 月まで延長。
・この措置により配給を受ける 8 億人の生活を支援。
（8）北東州農産流通公社（NERAMC）の救済策（7.7 億ルピー）
・NERAMC の債務再構築及び資金注入を行い、北東州における農業、調達、加工、販売に係るインフラの改善を図る。
（9）国家輸出保険勘定（MEIA）及びインド輸出信用保証会社（ECGC）への追加出資による輸出信用の強化（計 1.21 兆ルピー）
・MEIA は商工省により設定され，インド輸出信用保証会社（ECGC）により管理されている信託勘定。
・5 年間にわたる追加支出を通じて，インド輸出入銀行による海外プロジェクト向けの信用保証や ECGC の提供する輸出保証を強化。
（10）デジタル・インディア推進のためのブロードバンド整備（1904 億ルピー）
・全インドに高速インターネットを引く「バーラトネット」プロジェクトに対する追加支援。
（11）配電改革に対する支援（9763 億ルピー）
・小売・配電公社（DISCOM）に対して成果連動型スキームを導入し、電力セクター改革及び新しい電力供給スキームの確立を目指す。
・当初予算で発表・手当済みの措置。
（12）生産連動型奨励制度の対象期間の延長（なし）
・13 業種を対象とする生産連動型奨励制度の対象期間を 1 年間延長。
（13）従業員の新規雇用に対する補助スキームの延長（なし）
・実施期間を従来の 2021 年 6 月 30 日から 2022 年 3 月 31 日まで延長。

3　外交

（印・タイ関係）
6 月 9 日：インド国防省は、印海軍とタイ海軍がアンダマン海で第 31 回印・タイ共同偵察（Indo-Thai CORPAT）を開始した旨発表した。両国間の海洋関係を強化し、国際貿易のためにインド洋の安全を確保することを目標とし、両海軍は 2005 年以降年 2 回 Indo-Thai CORPAT を実施している。

（印・クウェート関係）
6 月 9 日：ジャイシャンカル外相は、9 日から 11 日までクウェートを訪問した。2021－22 年は両国外交関係樹立 60 周年にあたり、ジャイシャンカル外相にとって外相として初めての訪問となる。

（印・ケニア関係）
6 月 12 日：インド外務省は、12 日から 14 日まで、ジャイシャンカル外相がケニアを訪問した旨発表した。同外相は、オマモ・ケニア外務長官と会談した他、関連大臣との円卓会議に参加し、ケニヤッタ・ケニア大統領を表敬した。また、第 3 回印・ケニア合同委員会を開催し、二国間協力拡大に向けた共同声明を発出した。
（印・カタール関係）
6 月 15 日：インド外務省は、15 日、ジャイシャンカル外相がドーハを訪れ、ムハンマド外相兼副首相と会談した旨発表した。

（印・ギリシャ関係）
6月26日：インド外務省は、ジャイシャンカル外相が、25日から27日にかけてギリシャを公式訪問した旨発表した。同外相は、ミツォタキス ギリシャ首相を表敬訪問し、デンディアス外相と会談した他、アテネ市内でのマハトマ・ガンジーの銅像の除幕式に参加した。

（印・モーリシャス関係）
6月4日：インド外務省は、モディ首相がプラヴィン・クマール・ジャグナット・モーリシャス首相と電話会談を行った旨プレスリリースを発出した。

（印・スイス関係）
6月9日：インド外務省は、ジャイシャンカル外相がカシス・スイス連邦外相と電話会談を行った旨プレスリリースを発出した。

（印・リトアニア関係）
6月9日：インド外務省は、ジャイシャンカル外相がランズベルギス・リトアニア外相と電話会談を行った旨プレスリリースを発出した。

（印・デンマーク関係）
6月10日：インド外務省は、ジャイシャンカル外相がコフォズ外相と電話会談を行った旨プレスリリースを発出した。

（印・イスラエル関係）
6月17日：インド外務省は、ジャイシャンカル外相がラピド・イスラエル外相が電話会談を行った旨プレスリリースを発出した。

（印・ブータン関係）
6月18日：インド外務省は、インドがブータンと環境分野での協力に関する覚書を締結した旨発表した。大気汚染、廃棄物管理、化学物質管理、気候変動等の分野での協力を推進する。

（印ＡＳＥＡＮ関係）
6月16日：現地メディアは、シン国防相が拡大ＡＥＳＡＮ国防省会議に出席し、中国について議論した旨報じた。シン国防省は、「南シナ海における動きが注目を集めている。インドはこれらの国際的な海路における航行、上空通過、妨げられない商業の自由を支持する」と述べた。

（印・上海協力機構(SCO)）
6月23日：現地メディアは、ドヴァル安全保障担当首相補佐官が、22日及び23日にタジキスタン・ドゥシャンベで実施される上海協力機構(SCO)の会合に参加した旨報じた。

（G20）
6月28日～30日：ジャイシャンカル外相は、28日から30日にかけて開催されたG20マテーラ外相会合及び開発大臣関連会合に出席した。

（国連）
6月8日：現地メディアは、インドが国連経社理選挙において理事国に選出された旨報じた。2022年から2024の間、任期を務めることになる。

4　日印関係

6月11日：東京において、日・インド物品役務相互提供協定（日印ACSA）効力発生のための外交上の公文の交換が行われた（本年7月11日に効力を生ずる）。

6月25日：日本政府は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるインドに対する支援として、緊急無償資金協力を通じて約926万ドル（約10億円）相当のコールド・チェーン機材の供与等を実施することを決定した。

今月の注目点1：日・インド物品役務相互提供協定（日印ACSA）の効力発生のための外交上の公文の交換

（1）本協定は、自衛隊とインド軍隊が物品・役務を相互に提供する際に適用される決済手続等の枠組みを定めるもの。日印間の安全保障・防衛協力が深化・拡大する中で、自衛隊とインド軍隊との間で物品・役務を相互に円滑に提供する必要性について認識を共有した結果、平成30年（2018年）10月の日印首脳会談において交渉を開始することで一致し、令和2年（2020年）9月9日、ニューデリーにおいて鈴木哲駐インド日本国特命全権大使とアジャイ・クマール・インド国防次官との間で署名。

（2）本協定は、主に以下のものを協定の対象とする。

ア　自衛隊とインド軍隊の双方が参加する訓練のための物品・役務提供

イ　国連平和維持活動（PKO）、人道的な国際救援活動、大規模災害への対処のための活動のための物品・役務提供

ウ　外国での緊急事態における自国民等の保護措置又は輸送のための物品・役務提供

エ　連絡調整その他の日常的な活動のための物品・役務提供

オ　それぞれの国の法令により物品・役務提供が認められるその他の活動のための物品・役務提供。

今月の注目点2：インドに対するコールド・チェーン整備のための緊急無償資金協力

6月25日、我が国政府は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるインドに対する支援として、緊急無償資金協力を通じて約926万ドル（約10億円）相当のコールド・チェーン機材の供与等を実施することを決定しました。

1. 今回の協力では、国連児童基金（UNICEF）を通じ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるインドを対象に、ワクチン接種体制を構築する「ラスト・ワン・マイル支援」として、冷蔵・冷凍設備等の機材供与等を通じて、コールド・チェーンの整備を実施します。

2. 新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、途上国を含めてワクチンへの公平なアクセスを確保し、各国におけるワクチン接種を加速していくことが国際社会共通の課題となっています。我が国は、国際的なワクチン調達メカニズムであるCOVAXファシリティの形成を主導し、既に合計2億ドルを拠出し、先般8億ドルの追加拠出を発表しました。今回の協力は、ワクチンを途上国内の隅々まで運び、一人ひとりに届ける支援の一環であり、COVAXファシリティの取組を補完するものです。

3. 我が国としては、過去数十年にわたり、途上国の隅々まで届く医療供給網の整備に貢献してきた経験を活かし、引き続き、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束に向け、ワクチンを世界の一人ひとりに届けるための支援を行っていきます。

5. 新刊書紹介
Books Review

§日印協会発行『現代インド・フォーラム』2021 年 夏季号　No. 50

7 月 1 日に日印協会会員へメール添付で配信致しましたが、ご覧になっていただけましたでしょうか?

既に協会 HP にも 7 月 8 日に掲載済ですので、次の URL よりどなたでもご覧いただけます。お知り合いなどにご紹介いただければ幸いです。

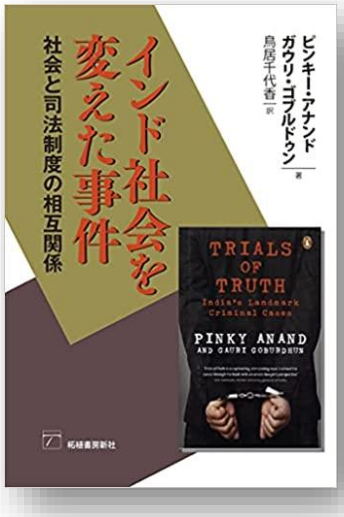
https://www.japan-india.com/forum/0825f0cf98eaeb25f2a5b06b3d98abcc9e1d627c

今号では、「歴史が現代インドに及ぼした影響」を特集し、下記 3 論文を掲載しております。

1. **多様性で解く現代インド－古代からの視点**
   長田俊樹（総合地球環境学研究所名誉教授）
2. **中・近世インドのムスリム国家から現代インドに継承されるべき遺産**
   長島 弘（長崎県立大学名誉教授）
3. **ベンガル湾海域圏を歴史的に展望する**
   重松伸司（南アジア史研究者）

本誌に関してご意見・ご感想等ございましたら、日印協会までご連絡ください。

§『インド社会を変えた事件―社会と司法制度の相互関係』
著者：ピンキー・アナンド／ガウリ・ゴブルドゥン
訳者：鳥居千代香　　出版社：柘植書房新社
価格：3,000 円＋税　　ISBN 978-4-8068-0738-4



2012 年の 12 月首都ニューデリーで起った医学生ニルバヤ集団レイプ事件は、悲惨な事件に衝撃を受け、抗議する男女でインド中の大都市で大騒ぎとなり、世界にも報道された。昼間の抗議デモ、夜のロウソクを手に持ち追悼集会に集まる人々を私はニューデリーで目撃した。事件後、インドでは女性の安全を守るため多くの法律が制定され、改善に多額の資金が投じられた。既決囚の刑も今年 2021 年 3 月に執行された。

著者ピンキー・アナンドはインド最高裁判所上級弁護士兼法務次官。社会問題に関心のある大学生のお譲さんの励ましと助けを得て本書を書いたと言う。前記の事件は「第 1 章 ひるまない女性―ニルバヤ集団レイプ事件」に含まれる。下記 11 の事件を中心に従来と異なるインドの姿を知る。

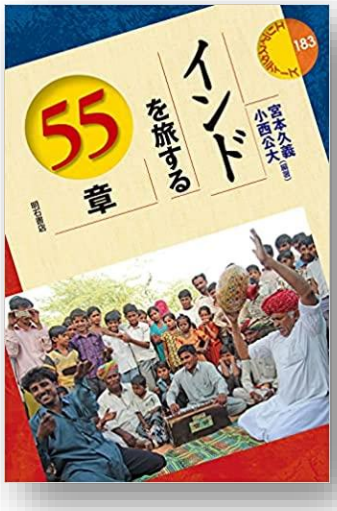
第1章　ひるまない女性―ニルバヤ集団レイプ事件
第2章　神の名において―テロリズム
第3章　殺人を犯す女達
第4章　運命のいたずら―姉と弟
第5章　市民社会の力―正義の擁護者
第6章　ナナヴァティ海軍司令官事件―インドで最後の陪審裁判
第7章　ニタリ村の殺人者
第8章　タンドール殺人事件
第9章　わずかなルピーのために―契約殺人
第10章　流血のない殺人―名誉棄損
第11章　暗殺されたインドの政治指導者達

1978 年のディワリの祭りの日に私は初めてインドに行ってから 2020 年 11 月 14 日のディワリまで 42 年間日本とインドを頻繁に往復する生活が続き、本書の各章の事件の多くをマスコミと人々の大騒ぎと共に記憶している。この「大騒ぎ」にも大切な意味があったことを第 5 章で知らされた。インド社会、司法制度、そしてその根底にあるものを把握してほしい。　（元帝京大学教授　日印協会会員　鳥居千代香）

§『インドを旅する 55 章』

編著者：宮本 久義、小西 公大　執筆者については下記参照

出版社：明石書店　　価格：2,000 円＋税　　ISBN 978-4-7503-5207-7



本書を読んだら、簡単にはこのコロナ禍で行けないインド旅行に行きたくなってしまった。あとがきによると「今だからこそイメージの世界のなかでインドの面白さを実感していただくこと」を思い今出版したそうだ。執筆者は、長年現地でフィールドワークや研究をした人を中心に、インド旅のスペシャリスト、インドの深みにどっぷりはまり人生を歩んでいる人など、インド知識、インド愛に溢れた各分野専門家 47 人だ。体験した者でないと書けない 55 章と 11 本のコラムは、内容が多岐に渡り、どこから読んでも楽しめる。執筆者名と各章を分類したメイン項目だけを紹介をさせていただく。

巻末にある執筆者紹介は、所属や肩書ではなく、自身の「インドとの関わり合い」が短い文章で書かれている。本文と合わせて読むと面白さ倍増だ。

（日印協会　山本真里枝）

執筆者（50 音順）：浅見 千鶴子、東 聖子、阿部 櫻子、井生 明、池亀 彩、石川 寛、石坂 晋哉、井上 春緒、岩井 昌悟、岩谷 彩子、上羽 陽子、梅村 絢美、小尾 淳、國弘 暁子、蔵前 仁一、黒崎 卓、黒田 豊、小磯 千尋、小磯 学、古賀 万由里、小嶋 常喜小、西 公大、小西 正捷、小松 久恵、澤田 彰宏、澁谷 俊樹、杉本 浄、関口 真理、高倉 嘉男、竹村 嘉晃、外川 昌彦、冨澤 かな、中尾 智路、にしはら みき、沼田 一郎、南風島 渉、橋本 泰元、舟橋 健太、松岡 環、松川 恭子、三澤 祐嗣、三田 昌彦、宮本 久義、虫賀 幹華、矢島 道彦、山名 訓、山本 達也

インド全図、旅のはじめに
第Ⅰ部　旅に出よう
第Ⅱ部　インドの不思議都市を歩く
第Ⅲ部　多様な宗教を旅する
第Ⅳ部　さまざまな人に出会う
第Ⅴ部　乗り物を楽しむ
第Ⅵ部　インドを泊まり歩く
第Ⅶ部　インドを食べ歩く
第Ⅷ部　世界遺産を旅する
第Ⅸ部　インドの伝統文化を旅する
第Ⅹ部　インドの現代文化を旅する
第XI部　旅のおみやげ
旅のおわりに
インドをより深く知り、旅を面白くするための基本図書

6. イベント紹介　Japan-India Events

◆　平林理事長「The Last Superpower India」に関するビデオインタビュー動画 3 部が公開中

会員メールでもご紹介しましたが、「最後の超大国インド」英訳版の出版を機に行った、Nupur Tewari 女史による協会平林理事長のインドのビデオ・インタビューが下記サイトよりご覧いただけます。

第一部：https://youtu.be/aE0_Dyixiro
第二部：https://youtu.be/ax54I_wKcLs
第三部：https://youtu.be/u2XoxXbkolA

日印の二国間関係につき、安全保障関係、経済関係、人的関係などを論じています。ぜひご覧ください。

◆　Indian Dance Festival at Yokohama 2021「 赤いゆび舞踊祭 」

観たり、聞いたり、踊ったり。全身で異文化を感じるインド舞踊祭。
インド舞踊独特の世界観を、インドが大好きなアーティストがお届けするプログラム。
日時：2021 年 8 月 28 日(土)・29 日(日)
場所：BUKATSUDO　https://bukatsu-do.jp/
主催：カダムジャパン　　詳しくは封入チラシをごらんください。

7. 掲示板
Notice

＜ 次回の『月刊インド』の発送日 ＞

次回 9 月号の発送は、2021 年 9 月 17 日(木)を予定しております。

チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。また、インド関連イベントの後援も行っております。申請方法などお気軽にご連絡ください。

＜ 編集後記 ＞

オリンピック開会 6 日目のきょう、本誌を印刷中だが、すでに金メダルは 13 個でトップ、編集子の知らない世界であったスケートボードで獲得するなど、銀、銅を含めて良好なメダル獲得状況だ。連日繰り広げられる多くの好勝負に国民が熱狂している。

開催については、新型コロナ問題、組織委員会のごたごた、IOC の唯我独尊の態度などが報道され、反対と延長を合わせて日本国民の半数以上が消極的だった。しかし、開会式の視聴率は 56.4%に上り、1964 年大会の 61.2%に迫る高さだった。国民の関心あるいは期待は高かったのである。日本選手や各国選手の真剣勝負を見てその喜びと悔しさを分かち合うにつけ、開催してよかったのではないか。

選手村などで感染者が 100 人を超えているが、多くは国内の出入り関係者などであり、警戒されてきた外国からのオリンピック関係者の感染も入国以前のものであり、日本人への感染も極めて少ないであろう。国内特に首都圏の感染は憂慮されるが、日本人自身のゆるみが主因であり、オリンピックに罪を着せる状況にはない。

多くの金と労力を使って準備してきた TOKYO2020 を自ら放棄したとすれば、日本国民の失意とわが国の国際的評価の低下以外何も残らなかったであろう。無事に乗りきって、この復興五輪が日本の声望を高め、日本国民の自信回復へとつながることを切に願う編集子である。　　(編集子)

入会随時受付中

日印協会は、1903 年、長岡護美、大隈重信、澁澤榮一の３名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人･個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費: 個人	１口(8,000 円)から	☆入会金	個人 2,000 円
学生	１口(4,000 円)から		学生 1,000 円
一般法人会員	１口(100,000 円)から		法人 5,000 円
特別法人会員	１口(150,000 円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド 2021年7月－8月合併号（2021年7月30日発行）　　発行人 平林 博　　編集人 西本達生
発行所　公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604　　Fax: 03-5640-1576　　E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: https://www.japan-india.com/